

頭ヶ島天主堂



五島列島
新上五島町
Shinagino Town

頭ヶ島天主堂は随所に花のモチーフが施されており、「花の御堂」とも呼ばれている。

新上五島町

信徒たちが積み上げた石造りの教会堂。

新 上五島町には二十九の教会堂がある。その多くが二百五十年にも及ぶキリシタン禁教令下で信仰を守り続けた信徒の子孫たちの奉仕によって建てられた。中でも世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である「頭ヶ島の集落」にあるのが「頭ヶ島天主堂」だ。

一九一九年に建てられた日本でも珍しい石造りの教会堂は、完成までに十年もの歳月がかかったという。ガイドの上原照子さんがその理由を教えてください。「教会堂はすべて信徒たちの浄財で建てられています。信徒たちは生活費を削ってはお金を貯めて石段を、お金を貯めて今度は石垣を...というように、少しずつしか建設を進められませんでした」。教会堂の裏手にまわる

と、窓枠の跡が見られた。「ここには本来ステンドグラスを施す予定だったようですが、資金が足りず、諦めたそうです。なんとも切ないお話ですね」。建造には、頭ヶ島周辺や目の前のロクロ島から切り出された砂岩が使われている。重機のない時代、三百キロ以上の石を六百三十個ほど積み上げたことを思うと、信仰の深さが伝わってくる。石に

はサイズを示す数字がノミで彫られている。「島の教会堂は観光用ではなく、信徒たちの祈りの場です。頭ヶ島天主堂も人に見せるためではなく、自分たちが作りやすいように建てたものであるからこそ、こうした数字が表に出ているのだと思われま

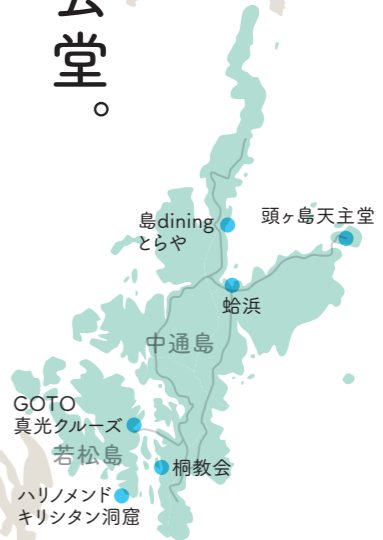
す」と上原さん。天主堂の内部は重厚な外観とはうって変わって、柔らかなパステルカラーの可愛らしい雰囲気。柱のない、広々とした堂内にステンドグラス越しの光が差し込んでいます。上原さんは祈りを捧げた後、こう続けた。「私は島の生まれですが、小学生の頃はキリスト教徒の子も仏教徒の子も関係なく、お弁当のおかずを交換するほど仲良くし

めて石段を、お金を貯めて今度は石垣を...というように、少しずつしか建設を進められませんでした」。教会堂の裏手にまわる

と、窓枠の跡が見られた。「ここには本来ステンドグラスを施す予定だったようですが、資金が足りず、諦めたそうです。なんとも切ないお話ですね」。建造には、頭ヶ島周辺や目の前のロクロ島から切り出された砂岩が使われている。重機のない時代、三百キロ以上の石を六百三十個ほど積み上げたことを思うと、信仰の深さが伝わってくる。石に

ていました。凄まじい迫害によって各地で多くのキリシタンが亡くなっていきますが、このまちでは昔からキリスト教徒と仏教徒が共存しており、迫害で命を落とした人はいませんでした。現在、新上五島町には教会堂だけでなく、七十以上の神社、二十以上のお寺があります。この島の歴史を学べば学ぶほど、こうして皆が共に暮らせる平和を心から嬉しく思います」。

多い時には二百名程いたという信徒も今では六軒十一名になってしまった。しかし石造りの教会堂は、彼らの手によって確かに守られている。



教会堂の裏手で見られる窓枠の跡



石にノミで刻まれた数字を見ると、この教会堂が信徒たちの手で造られたことを実感する。

頭ヶ島天主堂は上五島の中でもぜひ見ていただきたい場所です。



上五島ふるさとガイドの会の
上原さん